

委員質問・意見書

(9月12日) 受付分

(高桑委員)

● 東京電力HD に対する 質問

敷地内の液状化について質問

国土交通省北陸地方整備局が、地盤の性質として液状化しやすい傾向を示したものとして「新潟県内の液状化しやすさマップ」を公表しています。

その図によると、荒浜側敷地、大湊側敷地共に危険度3(0～4の5段階評価)であり、両敷地内に液状化履歴がいくつも印されています。

危険度については「多くの推定を含む大まかな傾向を示している」とありますが、“危険度3”は「強い地震に見舞われたり、地震時に地下水位が一時的に上昇したような場合、条件次第では液状化3条件を満たすと考えられる範囲」と説明されています。

敷地の液状化に関して2点質問します。

1. 中越沖地震の際、両敷地内の状況(沈下、亀裂、噴砂の様子など)はどの様だったのですか
2. 荒浜側敷地については、地震による液状化が考慮されましたが、大湊側敷地の液状化に対する考慮はどの様になされているのですか

(竹内委員)

● 東京電力HD に対する 質問

前回の第171回定例会で「過酷事故が二度と繰り返されないように基準地震動などを厳しくしているのだと思うが、付属の設備をいくら丈夫にしても原子炉自体は手を付けられないのでは？」とお伺いし、規制庁からは「原子炉がもたないと判断したら当然廃炉」。

東京電力からは「十分余裕が残っている」とのお答えをいただきました。

炉の耐圧余裕度について以下2点を教えてください。

①原子炉の耐圧余裕度はどの程度で設計し、基準地震動が厳しくなった今、どの程度の余裕が残されているのか教えてください。

②炉の圧力や温度、中性子などの影響による劣化を見るために「試験片」というものが入っていると思いますが、1～7号機それぞれの、試験片からわかる「どの程度の急激な温度変化に耐えられるのか」を教えてください。あわせてそれぞれが炉心冷却装置を使うことになった場合の急激な温度変化で割れる心配がないかどうかも教えてください。

(宮崎委員)

● 東京電力 に対する 質問

1. 審査会合の資料が何度も修正されて信用できません。柏崎平野南部、横山の段丘について注目するだけでも次の変わりようです。

2015, 4, 10(第218回)では、「安田層・古安田層:凡例 」

⇒ 2015, 6, 19(第241回)では、「安田層(MIS5e):凡例 、と

古安田層(MIS7) 凡例: 」に

⇒ 2016, 9, 30(第404回)では、「安田層上部層(MIS5e):凡例 、と

安田層下部層:凡例 」に

⇒ 2017, 8, 21 原子力規制庁拡大・加筆した資料を提出しています。

刈羽(藤橋)テフラに関連して、敷地内断層が活断層かどうか、科学的議論の上で判断しなければならない問題でありながら、この不確実性です。8月2日の宮崎の質問1, 2に対して、東電の回答は「地質調査は個別の論文、研究者の調査結果に基づかず、東京電力の調査結果と資料作成時までの文献によった」と回答をしています。東京電力の調査結果と資料作成時までの文献がいかに科学的権威のないものか、一目瞭然です。

質問

「中央油帯背斜南部周辺の地質図」の藤橋の丘陵の周辺は、見事に「古安田層の緑」が塗られ、丘陵の中心部は「安田層上部層」になっています。東電は、「安田層」と「古安田層」は「不整合」だと自信を持って発表しています。ボーリングはしていない、「不整合」の写真はないといっています。でも、東電は回答の中で「周辺の知見を踏まえて」として、はっきりと塗り分けています。「安田層」と「古安田層」が「不整合

＝古安田層と安田層の境界」が確認される知見を持っているのでしょ。「不整合」が確認されている地点を数か所、五万分の1の地図上にマークして位置を示し、教えてください。

2. 中子軽石層（NG）と DKP 火山灰が採取された露頭長崎 53、54 について、引き続き質問します。9月6日の回答で、NG と DKP が確認されたのは、8月2日の回答通りだとありました。

質問1

2015, 9, 18 「敷地近傍の地質・地質構造について」 P77 のボーリング調査結果の図から、Ns-9 で NG が採取されたとした報告をいとも簡単に、なかったことにして、図から消去してしまいました。岸(1996)論文で言う露頭長崎 54 (NG の無いところ) が Ns-9 地点だったから、消去したのですか。ならば、8月2日の回答通りではありません。いや、8月2日の回答通りだというのであれば、Ns-9 で NG が採取されようが消去することはなかったと考えます。なぜ、消去したのですか。

質問2

P77 のボーリングは、頁の標題にあるように「断層」があるか調査したものです。8月2日の回答どおりとしますと、露頭長崎 53 の標高 27m に約 13 万年前の NG 火山灰があり、露頭長崎 54 の標高 25m に約 5 万年前の DKP 火山灰があることになります。古い火山灰が上に、新しい火山灰が下。各地点の距離は 500m ほどです。日吉小近くにはっきりした断層があります。Loc2 の NG が簡単に消去される調査です。地下の波形図も信用おけません。断層があるのではありませんか。

以上